大分合同新聞
ワークシート

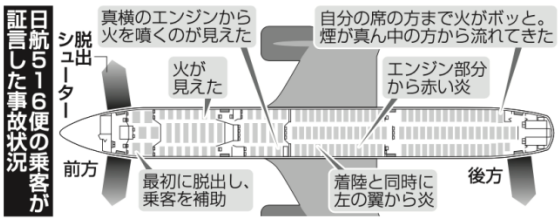
年　　組　　氏名

大分合同新聞
2024年
1月4日(木)
朝刊 16面

炎、煙、爆発音…恐怖の18分間

「ガン」。強い衝撃を感じて窓の外を見ると、日が落ちた暗い空港でエンジンや翼が炎に包まれていた。羽田空港で2日、乗客乗員379人が搭乗した日航機と海上保安庁の航空機が衝突し、炎上した事故。日航によると、午後5時47分に着陸し、全員の避難が完了したのは午後6時5分。その後、機体は火だるまになった。乗客らが爆発音と炎の恐怖に襲われた約18分間を語った。

川崎市の大学教授金子洋之さん(67)は前方右側の席にいた。着陸した機体は、つんのめるようになった後、右側にずれるようにしてようやく止まったと感じた。「エンジンが」という声が上がり、火が見えた。「早く脱出しないとまずい」と叫んだが、乗員は「落ち着いてください」と繰り返すばかりだった。



「ボン」「ボン」と爆発音が続く。機体の右側に乗っていたという東京都の会社員坂本亮介さん(55)は、窓越しにエンジンのある場所がオレンジ色になっているのに気付き、隣の席にいた乗客と「おかしいね。赤いね」と話した。

「まず火が自分の席の方までボッと来た」。後方の窓際に座っていた東京都葛飾区の男性会社員(40)は「それから5分ぐらいして煙が真ん中の方から流れてきた。客室乗務員がどこの扉が開けられるか話していた」。

「真横のエンジンから火を噴くのが見えた」「着陸と同時に左の翼から炎が上がった」。複数の乗客が証言した。

機長は「原因が分かりません」とアナウンス。客室乗務員は「動かないで」と繰り返し、「とにかく姿勢を低く」と自分たちもかがんでいた。日航によると、アナウンスシステムが使えず、メガホンや肉声で安全に避難できると判断した3カ所の非常脱出口に誘導した。

「落ち着いてください。煙を吸い込まないようにしてください」。客室乗務員が声を張り上げる中、左側の中央部に座っていた10代の女子大学生は、煙のため視界が悪くなった機内で、マスクとハンカチを使い、吸い込まないように移動した。医療従事者の女性(45)によると、早く逃げたい乗客と席に戻ってと言う乗員が、押し問答になる場面もあった。

群馬県館林市の男性医師(52)は最前列の座席におり、最初に脱出シューターを使って降りた後、後続の乗客の補助に当たった。皆があわて、転ぶ人もいた。「どんどん燃え、爆発したらと怖かった」。手伝いを終え、先に機体から離れていた妻と長女(12)と滑走路で再会すると抱き合った。客室乗務員が冷静に連携していて「普段からよく訓練されていると感じた」という。

東京都の会社員沢田翼さん(28)は交際相手と観光を楽しんだ帰り。「少しでもタイミングが遅れたら死んでいたかもしれない。飛行機にはもう乗りたくない」

〔問①〕１月２日に日航機と海上保安庁の航空機が衝突炎上した事故の記事を読み、日航機の乗員・乗客ら全員が恐怖の18分間を乗り越えた要因となる部分にアンダーラインを引きましょう。

〔問②〕アンダーラインをもとにして、この様な突発的な事故が発生した場合、命を守る行動として重要なポイントについて自分の考えを書きましょう。

©大分合同新聞社　教育目的以外の無断転載・複製および頒布は禁止します。